

十勝圏ふるさとづくりプラン（R2～R6）
の取組み状況

令和7年3月

十勝圏複合事務組合

目次

- 1 これまでの経過
- 2 十勝圏ふるさとづくりプランの総括
- 3 十勝圏ふるさとづくりプランの取組実績
- 4 十勝ふるさと市町村圏基金の運用
- 5 次期プラン策定にあたっての検討経過

1 これまでの経過

国は、第四次全国総合開発計画の多極分散型国土形成を促進するため、自立的発展が見込まれる圏域を「ふるさと市町村圏」として指定することとし、十勝圏は平成元年にモデル地域として選定されました。

これを受け十勝圏複合事務組合が設立され、ふるさと市町村圏計画の策定やふるさと市町村圏基金が創設されました。

このうち「ふるさと市町村圏計画」については、平成元年度に「十勝ふるさと市町村圏計画」、平成10年度に「第2次十勝ふるさと市町村圏計画」、平成20年度には、「第3次十勝ふるさと市町村圏計画」をそれぞれ策定しました。これらの計画に基づき、圏域の総合的かつ一体的な整備のための施策として、構成市町村の総合計画との整合性を持った施設整備（ハード事業）などの広域事業の推進や、基金の運用益を活用した地域振興事業（ソフト事業）を実施してきました。

そうした中、国が「第3次十勝ふるさと市町村圏計画」策定後の平成21年3月に「ふるさと市町村圏計画」の根拠となる「広域行政圏計画策定要綱」及び「ふるさと市町村圏推進要綱」を廃止したことで計画策定の義務付けがなくなり、今後の広域連携については、地域実情に応じて関係市町村の自主的な協議に委ねられることとなりました。

そのため、十勝圏においては、令和2年度に構成市町村との協議を経て、新たな「十勝圏ふるさとづくりプラン」を策定し、引き続き圏域の振興を図る取組みを進めることとしました。

このプランに沿って組合では、人口減少、少子高齢化の進行による人口構造の変化や労働力人口の減少は、地域経済の縮小や地域社会の活力低下を招くなど、地域振興を図る上で大きな影響を及ぼすことから、十勝への移住希望者に対する情報提供等、移住・定住の促進を図ってきました。

このほか、広大な面積を有する本圏域においては、産業構造や各自治体が抱える課題も異なっていることから、課題の解決に向けて、地理的・歴史的なつながりが強い市町村が連携しながら、ブロックとして、イベントや研修会の開催を行うなど、様々な分野で広域的な連携や機能強化を図り、創造性と個性あふれる圏域づくりを進めてきました。

十勝ふるさと市町村圏計画の変遷

平成元年8月	多極分散型国土形成モデル地域「ふるさと市町村圏」に選定
平成2年3月	十勝ふるさと市町村圏計画策定
平成元～2年度	構成市町村の出資と北海道の助成により、10億円基金造成
平成10年5月	第2次十勝ふるさと市町村圏計画策定
平成20年3月	第3次十勝ふるさと市町村圏計画策定
平成21年3月	広域行政圏計画策定要綱・ふるさと市町村圏推進要綱廃止（国）
平成29年2月	第3次十勝ふるさと市町村圏計画を2年間延長
令和2年2月	十勝圏ふるさとづくりプラン策定

2 十勝圏ふるさとづくりプランの総括

組合では、令和2年2月に策定した十勝圏ふるさとづくりプラン（以下、現行プランという）において、その前身である第3次十勝ふるさと市町村圏計画での取組みを継続しながら、地域の特性を活かし、次の3つの「地域振興施策」を推進してきました。

～ 「移住・定住の促進」 ～

◎これまでの取組みと成果

圏域への移住希望者に対する情報提供、大都市圏で行われる移住フェアへの構成市町村の参加支援や19市町村の移住情報及び移住体験情報に関する冊子の作成、移住情報雑誌への広告掲載等を実施してきました。構成市町村の積極的な移住・定住への取組みのほか、当組合における移住情報の一体的な情報発信等もあり、令和2年度から令和5年度の4年間で1,843人が十勝管内に移住しています。また、国勢調査では、十勝管内の総人口は、平成12年の357,858人から減少が続いており、令和2年度には332,648人となりましたが、十勝管内の人口減少率は、道内において14振興局別で2番目に低い状況が続いています。

◎今後について

全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、地域社会の活力低下等を抑制するため、地域の魅力を継続して発信し、圏域への移住・定住に繋げ、新たな人材を確保する必要があります。

～ 「交流人口や関係人口の拡大」 ～

◎これまでの取組みと成果

19市町村のご当地キャラクターカードを作成し、来訪された方への配布やふるさと納税に関するPRイベントへの出展、日高山脈襟裳十勝国立公園の指定に向けた講演会の開催等、地域資源を活用した事業を実施しました。令和2年度からのコロナ禍により、外出等の制限があったことから、ソーシャルメディアプラットフォームを活用した動画チャンネルを開設し、自宅からでも講演会に参加できるような事業展開にしたところ、令和3年度から令和5年度の3回の開催で、現地参加も合わせて208人の参加がありました。

◎今後について

交流人口や関係人口の拡大を図るため、これまでの取組みの蓄積を活かしつつ、十勝の魅力を感じてもらうための取組みを継続して行い、圏域外の人に十勝のことを知ってもらうとともに、その先の展開として移住・定住につなげていくことも意識しながら取り組んでいく必要があります。

～ 「広域連携の推進及び共通課題への取組み」 ～

◎これまでの取組みと成果

これまで地理的に近傍にある複数の自治体を一つのブロックとし、令和2年度から令和5年度までの4年間で、ブロックごとに交流人口増加を目的としたイベントや地域課題の解決に向けた研修会の開催、人材育成に向けた講演会等の事業実施に向けた

支援を行いました。各ブロックで事業が実施できたことで、近隣市町村間のみならず、圏域外も含めた中での人の交流や市町村が抱える課題解決の糸口に繋がるような意見交換等が行われました。

◎今後について

市町村単独では解決が難しい課題でも、地域間で交流と連携・協働することで解決に向け、効率的に取り組めることもあり、持続可能な圏域の発展を目指し、これまで培ってきたブロック単位による枠組みを活かした取組みを継続しながら、より一層の市町村間の交流と連携・協力を深める必要があります。

以上のことから、現行プランに位置付けた「地域振興施策」については、圏域振興の一助となる一定の成果があり、今後も継続した取組みが必要であると考えています。

3 十勝圏ふるさとづくりプランの取組実績

【令和2年度】

・北海道キャラクターカード

19市町村のご当地キャラクターをカード化し、各まちの指定施設来場者にキャラクターカードを配布しました。コンプリート賞として、荒川弘さん原作の漫画「百姓貴族」のキャラクターを使用したレアカードを300名の方に送付しました。



【令和3年度】

・移住パンフレット作成

移住検討初期段階の方や十勝を知らない方向けの移住パンフレット「はじめてとがち」を2,000部作成しました。



・魅力たくさん！十勝探訪（考古学編）

八千代A遺跡をはじめ多くの遺跡の魅力を伝える講演会として、現地とオンラインのハイブリッド方式で開催し、現地では11名、オンラインでは35名が参加しました。

【令和4年度】

・移住パンフレット改訂、増刷

平成30年度に作成した「北海道・十勝移住体験ガイド」の内容を改訂し2,000部増刷しました。



・移住者交流会の開催

十勝管外から移住した子育て世代の方を集めたワークショップを開催し、市町村職員を含む30名が参加しました。

・魅力たくさん！十勝探訪（廃線編）

十勝に数多くある廃線の中から「旧士幌線」にスポットをあてた講演会として、現地とオンラインのハイブリッド方式で開催し、現地では36名、オンラインでは37名が参加しました。

【令和5年度】

・移住者交流会の開催及びパンフレットの作成

十勝管外から移住した子育て世代の方を集めたワークショップを開催し、市町村職員を含む13名が参加しました。家族で移住を検討している方向けに、ワークショップの内容等をまとめたパンフレットを3,000部作成しました。



・魅力たくさん！十勝探訪（日高山脈編）

2024年中に日高山脈襟裳十勝国立公園の指定に伴い、「日高山脈」にスポットをあてた講演会として、現地とオンラインのハイブリッド方式で開催し、現地では51名、オンラインでは38名が参加しました。

・JOIN移住・定住&地域おこしフェアへの出展

十勝の関係人口創出のため、ふるさと納税のPRブースを出展し、十勝の認知度調査アンケートを実施したところ、140名分の回答を得られました。

【令和6年度】

・移住パンフレット作成

十勝に移住された方をテーマごとに取り上げ、移住された経緯や決め手などを紹介し、冊子にまとめたものを1,800部作成しました。



北海道・十勝
移住インタビューBOOK

・JOIN移住・定住&地域おこしフェアへの出展

十勝の関係人口創出のため、ふるさと納税のPRブースを出展し、十勝の認知度調査アンケートを実施したところ、158名分の回答を得られました。

・日高山脈襟裳十勝国立公園のPR動画作成

日高山脈襟裳十勝国立公園の指定に伴い、「日高山脈」に対する近隣住民の思いに着目したPR動画を作成し、ソーシャルメディアプラットフォーム等を活用して魅力を発信しました。

【その他毎年度】

・雑誌等への移住広告掲載

移住雑誌「北海道生活」に希望市町村の取りまとめ、広告を掲載しました。



・北海道移住・交流フェア出展

大阪会場、東京会場への出展を行い、十勝の総合窓口として構成市町村への橋渡し等を行いました。

・ブロック別広域連携促進事業

十勝を6個のブロックに分け、交流人口増加を目的としたイベントや地域課題の解決に向けた研修会の開催、人材育成に向けた講演会等の事業実施に向け、各ブロックに80万円の支援を行いました。

4 十勝ふるさと市町村圏基金の運用

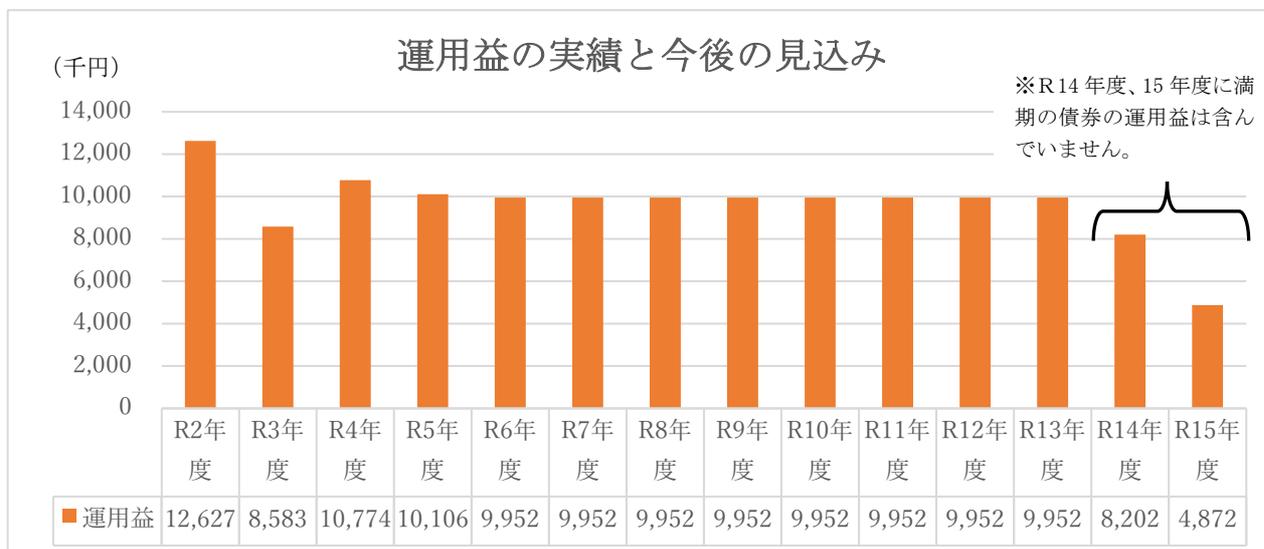
■ これまでの運用状況について

基金については、現行プランで国債、北海道債等の購入による基金運用を行ってきました。この結果、毎年度8,583千円～12,627千円の運用益があり、各種事業に充当してきました。

■ 今後の運用について

令和13年度までは、毎年度9,952千円程度の運用益があるため、これまでと同様に運用益を各種事業に充てていきます。

令和14年度以降は、満期を迎える債券に対する運用利率が不透明であることから、基金の運用益状況、事業の評価検証や社会情勢等を踏まえながら、企画担当課長会議等で各種事業等の見直しの検討が必要です。



5 次期プラン策定にあたっての検討経過

企画担当課長会議等において、協議・検討を行った結果、社会経済情勢の変化により、現行プランに示された具体的な取組みが効果的に実施できなかったことを踏まえ、今後策定するものは、圏域の振興に必要な事業をより柔軟に進めていくため具体の取組みは掲載せず、施策の大きな方向性を示すほか、期間を定めないこととしました。

このほか、構成市町村からは、現行プランで取り組んできた移住・定住の促進や市町村単独では難しい事業の圏域での実施などは、圏域振興の一助となる一定の成果があったことから、継続の要望がありました。

これらを踏まえ、十勝圏複合事務組合では、現行プランのような振興計画ではなく、十勝圏振興方針を策定し、圏域の振興を図っていくこととしました。